

第 626 回 NACS-J 自然観察指導員講習会 - 千葉県

1 日目：渡辺 友則（千葉市）

2 日目：菅澤 麗子（成田市）

日 時：2025 年 10 月 18 日（土）、10 月 19 日（日）

場 所：昭和の森フォレストビレッジ（千葉市）

受 講 者：58 名

事 務 局：（運営）NACS-J 大野、浅岡、植木、（講師）佐野由輝、秋山幸也

スタッフ：伊藤、山口、木下、奥村、川北、梅宮、菅澤、川井、井上、渡辺

< 1 日目 >

千葉県での指導員講習会は 2 年ぶりの開催。雨の心配がありましたが終日過ごしやすい気候となりました。2 日間にわたる充実したプログラム内容の初日、前日からの会場準備、また当日の受付対応・駐車場誘導をスムーズに行い、無事開講式を迎えました。講師、事務局、スタッフの紹介を経て、講師の佐野氏からは「仲間づくりの重要性」、事務局の大野氏



からは「自然観察から始まる自然保護の大切さ」についての挨拶がありました。その後、3 班に分かれて屋外での実習に移り、受講者は谷津田の風景をスケッチし、マクロとミクロの観察の視点を実感していました。昼食後、佐野氏より、国際的な気候

野外実習はまずはスケッチから

危機や生物多様性の損失の課題感、国内における生物多様性国家戦略の枠組み、自然保護・保全の分類などの講義がありました。つづいて秋山氏より、日常の中の自然に気づく実例や、自然観察会はその気づきの場を提供することなど自然観察の講義をしていただきました。山口氏より、受講者のみなさんへのメッセ

ージとして、いまの熱量を具体化する機会としての協議会への参加を促し、実際の観察会などの活動紹介がありました。夜は情報交換会として、受講者と事務局・スタッフが闊達



熱量あふれる講義

に意見を交わし、自身の活動を紹介し合うなど大盛況の 1 日となりました。

<2日目>

キンモクセイとカツラのバニラの香りに包まれた昭和の森フォレストビレッジ前の広場から、早朝のオプション観察会がスタートし2日目の講習会が始まりました。

心配していた雨は降らずに曇天です。山の中の急な下り坂を降りた下タ田池のあたりで「マヤラン」を見つけ、早速撮影会となりました。講習生達は3つの班に分かれて午後のミニ観察会に備え、皆ネタ探しに奔走していました。

いよいよスタートした午後のミニ観察会。指導員役となった最初の講習生は、蜘蛛の巣探しでした。池側と水路側に分かれてどこにいくつあるか観察していきます、最後にお互いの情報を共有しあい約5分間の観察会が終了です。その後も足型に切り抜いたA4用紙を小道具として使用し、ペアで足型の中の草むらの小さなスペースを細かく観察したり、秋の実の色に着目し、色別に見つけあったり、はたまたタニシなどが田んぼにつけた痕跡で、複雑な線状から数字に見える跡を見つけだして発表しあうなど、子ども達も参加できるような観察会が手際よく行われました。どの会もしっかりと準備され、実際の観察会でやりたいような題材ばかりで大変感心させられました。

現役の高校3年生から大学教員だった方まで、すでに指導員として活躍されている方も多数いて、大変活発な講習会となりました。

すでに12名の方が自然観察ちばの仲間になってくれたとのこと、大変心強く思います。

一緒に活動できる日がとても楽しみです。初めて参加させていただいた講習会でしたが緊張とともに、大変充実した2日間となりました。ありがとうございました。



「マヤラン」 発見



虫になった低い視線で



葉っぱで「怒った顔」を作る